



富岡市「ゼロカーボンシティ」

～2050年二酸化炭素排出量、実質ゼロに向けて～

近年の地球温暖化を一因とした気候変動は、世界規模で対応していかななくてはならない国際問題であります。地球温暖化により、国内では過去に類を見ない大規模な自然災害が発生しており、今後も頻繁に発生し激甚化することが予想されます。こうした自然災害から私たちは生命や財産を守り、また豊かな自然環境を次代につなげなくてはなりません。

一昨年、国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）のグラスゴー気候合意では、「気候変動及び生物多様性の損失という相互に結び付いた世界全体の危機、並びに自然及び生態系の保護、保全及び回復が、気候変動への適応及び緩和のための利益をもたらすにあたり重要な役割を果たす」と述べられています。

また、パリ協定で示された世界の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をするという目標は、COP26のカバー決定にも盛り込まれ、「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の「1.5℃特別報告書」において、気温上昇を約1.5℃に抑えるためには、2030年までに2010年比で世界全体の二酸化炭素排出量を約45%削減することが必要という知見が示されました。

持続可能な開発目標（SDGs）においても、気候変動への具体的な対策等が掲げられており、これらの理念や視点に立った行動が求められています。

本市では、令和3年度に地球温暖化対策実行計画を包含する「豊かな自然と歴史を育み 未来につなぐ 安全・安心な環境都市 とみおか」を将来像とした第3次環境基本計画を策定しました。

この計画に基づき、市民・事業者の皆様とともに、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティを目指すことをここに表明します。

令和5年1月23日

富岡市長 榎本義法